

# 視点

ヨーロッパを旅して目に付くことは、デポジット(預かり金)制度が、一般国民の生活の隅々にまで浸透していることである。今回は、その制度について紹介したい。

徹底して実行しているのは、飲料水用のペットボトル、缶、紙パックへの実施である。デパート、スーパー、街の売店等どこで購入しても、飲料水代以外にデポジット料金二十五〜三十円(四十円程度)を自動的に支払う必要がある。ただ、このデポジット金は、使用済みの空き瓶、缶、紙パックをスーパー等のお店に持参すると、払い戻してくれる。

このシステムは、環境先進国といわれるドイツだけでなく、ヨーロッパ各国で実施され、同じ国内であればどこのお店でも返金してくれる。そして資源の再利用・再利用を図るとともにポイ捨て防止に大きく役立っている。実際に最近のヨーロッパ各国では、ペットボトルや缶等のポイ捨てごみは見当たらなくなっている。

そのほかのデポジット制としては、スーパーのカート(手押し車)がある。通常、カートは鎖につながれている。利用者は一円(約百五十円)硬貨を入れて、鎖を外して使用する。そして使用後はカートを戻し、鎖をつなぐと、使用前に入れた硬貨が返る仕組みである。実態として、消費者がカート整理を行っていた。

## 欧州のデポジット制度

日本のJRには、レンタル自転車がある。あたるドイツのDB(ドイツパイン)等、各国の鉄道的主要駅には、旅行者用の荷物運ぶための運搬用カートを多数置いてある。これも鎖の鉄道的主要駅には、旅行者用の荷物運ぶための運搬用カートを多数置いてある。これも鎖の



富士見村石井

県環境アドバイザー連絡協議会代表

かずき 鈴木 かつあき 克彬

## 生活の隅々にまで浸透

さらに、このデポジット制は、ビアガーデンのビールのジョッキでも行われている。ビール二杯、ジョッキ二杯、計四杯を初めに払うのが一般的で、飲み終わった後、ジョッキを戻せば二杯が返金される。もちろん、お代わりはジョッキさえ持っていけば、ビール代だけの二杯で済む。お客がこのデポジット制を知らず、「そのまま帰ってしまったら」との質問に「それは清掃費代として売店がいたただく」とのことだった。

「これまで書く」と、読者の中には、日本だって昔はビール瓶、一升瓶、ラムネ瓶もデポジット制だった、と言われる方も多と思う。また、ポイ捨て防止、資源の有効活用等に役立っただけで、「日本でもデポジット制度を導入したら」との意見もあると思う。

しかし、日本では、数多くの消費者団体、NPO、地方自治体等の要望にもかかわらず、業界団体の経済的理由(経費・採算面)、衛生上の問題、代金先払いに対する一般国民の抵抗感等の理由で実現性は薄いの現状である。

【略歴】成城大卒。元ナカエエンジニアリング社長。県環境アドバイザー連絡協議会代表、ぐんま日独協会事務局長、前橋市フオークダンス協会副会長。

# オピニオン21

雷神でも見られます。アドレスは <http://www.raijin.com>

### 中田選手の引退に思う

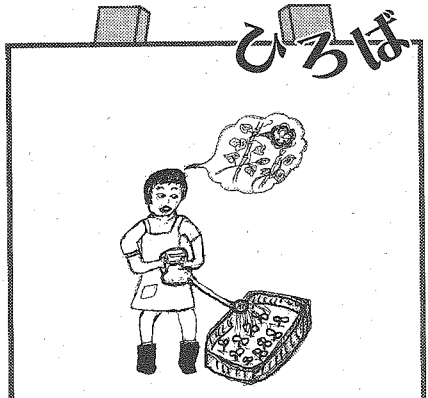
高橋 恵実

(前橋市・29)

中田英寿選手の突然の現役引退表明に、衝撃が走った。二十九歳という若さでの引退にはさまざまな意見があったが、私は同じ年でもある彼の決断にエールを送りたい。

ある女性評論家が「彼が使った『新たな自分さがしのため』という言葉の方があまり好きではない」と述べていた。確かに私たちはよく「新しい自分になる」「本当の自分を見つける」などといった言い方をする。特に青少年期は、それらの言葉を使いながら生きることで自分を正当化したり、自我を確立したりするのが普通だと思っ

中田選手の場合、「新たな自分をさがすこと」とは、「自分の中に秘められた可能性を見つけ、それに挑戦すること」と言い換えられるのではないかと、私は感じた。実際、彼は多才であり、多感であると思う。ゆえに別の生き方を選ぶ決意を固めたことに、あまり違和感はない。



### ひろば

細谷 実 (伊勢崎市)

私たち自身も、その可能性か、気付かない重要であり、その時、この先合っていくべきことになるの。そして向き合っていく、その後の人されるのかも。集落の雑沓がポストが

増田 耕

(みなかみ)

いつも郵便を、電車通勤の駅前のポストにいました。ある「お父さん、集落にポストがない。切手もあり。驚いた私。水回りの時、店に寄ってみる

上毛川柳 山口菓声選

わが家の主役